

4. 水需給の見通し

(1) 水道用水

全国的に人口が減少する中で、本県では、平成12年度頃より人口減少局面を迎え、今後も減少傾向が続くと予想される。

国立社会保障・人口問題研究所の人口推計によると、本県の総人口は、平成18年度の約1,006千人に対して、平成37年度には約887千人（11.8%減）になると予測されている。

給水人口については、水道普及率が、平成18年度の98.8%から平成37年度には99.2%に向上すると予想されるが、総人口と同様の減少傾向にあり、平成37年度には平成18年度に比べて110千人程度減少するものと予想される。

これらのことから、本県における水道用水の年間需要量は、平成18年度の143,030千 m^3 から平成37年度は134,905千 m^3 （5.7%減）に減少するものと予想される。

しかしながら、一方で、本県においては、「元気な香川」の実現を目指して、少子化対策や雇用の場の確保による定住促進などに積極的に取り組むことにより、人口減少の抑止を図っていくこととしており、今後の人口の動向を踏まえながら見直しを行っていくこととする。

表 - 1 水道用水の需要量見通し

	H18	H27	H32	H37
総人口(千人)	1,006	963	927	887
給水人口(千人)	994	954	919	880
水道普及率(%)	98.8	99.1	99.1	99.2
需要量(千 m^3 /年)	143,030	142,345	138,684	134,905
家庭用水使用量(l /人・日)	230	232	233	234

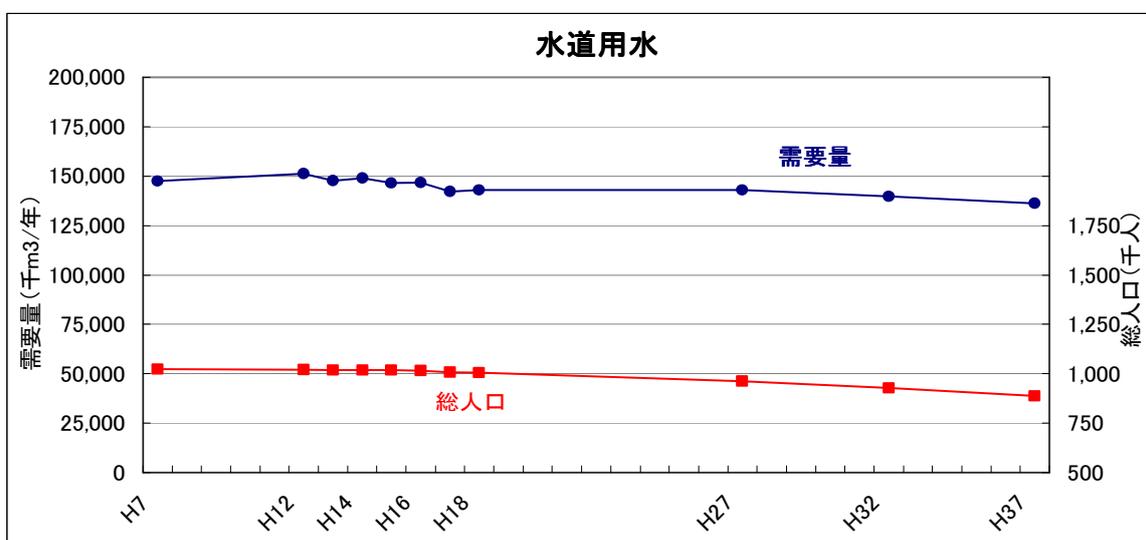


図 - 2 水道用水の需要量等

表 - 2 水道用水の需給バランス

(年間：千 m³/年、日最大：千 m³/日)

地域	年次 項目	年間ベース				日最大ベース
		H18	H27	H32	H37	H37
全 県	需 要 量	143,030	142,345	138,664	134,905	458
	供 給 量	138,949	140,809	137,329	133,788	403
	不 足 量	▲ 4,081	▲ 1,536	▲ 1,335	▲ 1,117	▲ 55
給 香 水 川 地 用 域 水	需 要 量	132,932	132,850	129,379	125,854	424
	供 給 量	129,531	133,225	132,755	132,755	373
	過不足量	▲ 3,401	375	3,376	6,901	▲ 51
非 香 給 川 水 用 地 水 域	需 要 量	10,098	9,495	9,285	9,051	34
	供 給 量	9,418	7,959	7,950	7,934	30
	不 足 量	▲ 680	▲ 1,536	▲ 1,335	▲ 1,117	▲ 4

※香川用水給水地域と香川用水非給水地域との間では水融通ができないため、全県の供給量と不足量については、合計値が一致しない場合がある。

※日最大ベースの香川用水の供給量は、過去の取水実績より 65%供給として評価。

(2) 工業用水

本県は、これまで地域経済活性化のための各種施策に取り組んできたが、平成 19 年 12 月には、地域の特性と強みを活かし、企業立地の促進による地域産業の活性化を推進するため、「香川ものづくり産業振興計画」を策定し、現在、この計画に沿って、積極的な企業の誘致活動に努めているところである。

こうした取り組みによって、新たな企業立地が促進され、工業用水の年間需要量は、平成 18 年度の 68,857 千 m³から平成 37 年度は 90,383 千 m³に増加(31.3%増)すると推定される。

水需要の見通しを地域別にみると、大規模な工場適地を有する中讃ブロックでは増加傾向が予想されるが、その他のブロックでは概ね横ばいの状態で推移するものと予想される。

表 - 3 工業用水の需要量見通し(上水道依存分を含む)

	H18	H27	H32	H37
製造品出荷額(億円)	21,743	20,308	20,008	19,764
需要量(千 m ³ /年)	68,857	80,804	87,397	90,383

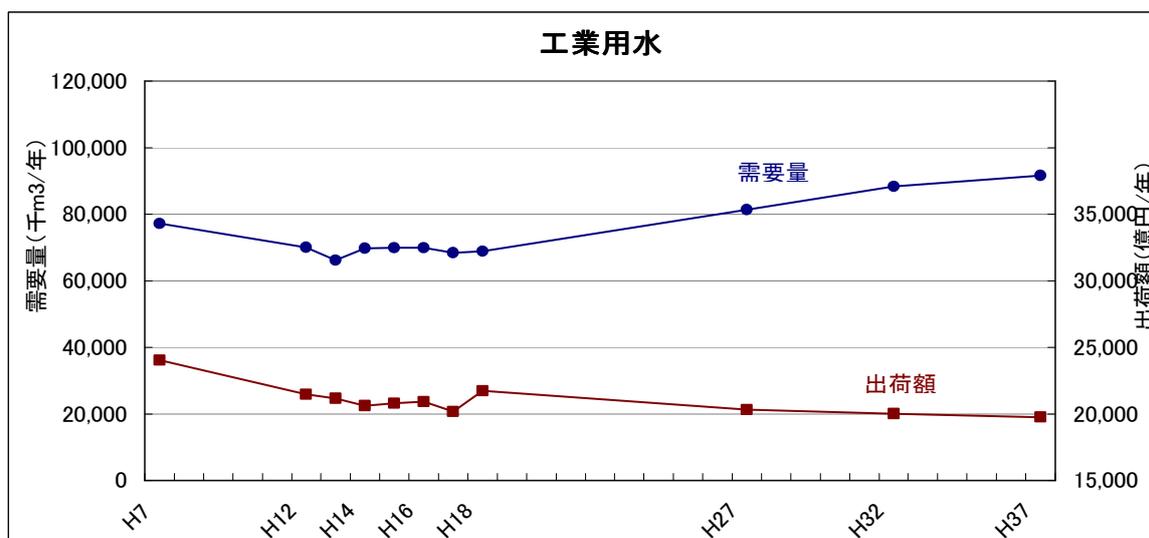


図 - 3 工業用水の需要量等

表 - 4 工業用水の需給バランス

(千 m³/年)

		H18	H27	H32	H37
全 県	需要量	68,857	80,804	87,397	90,383
	供給量	68,857	80,661	86,618	87,241
	不足量	0	▲ 143	▲ 779	▲ 3,142

(3) 農業用水

本県の農業をとりまく情勢は、農業者の減少や高齢化に伴う農地の遊休化、都市化に伴う宅地等の拡大により、農地面積の推移も緩やかな減少傾向にあり、農産物の安定供給や、農業・農村の有する多面的機能の低下が懸念されている。

県では農業・農村の振興を図るため、「香川県農業・農村基本計画」を策定し、計画の実現に向け、地域の実情に即した総合的な施策の展開に努めている。特に、水稻については、本県農業の基幹作物として、地域の条件に応じた良食味品種への作付誘導や地域ブランド米など特色のある米生産の育成を推進するほか、食料自給率向上政策を推進することとしており、今後、作付面積の増加が見込まれる。また、家畜頭羽数については、近年大きな増減が見られないことから、今後も現状に近い値で推移すると見込まれる。

農業用水の需要量は、こうした要因のほか、農作業の機械化や栽培様式の変化などにより増加が見込まれる。また、農業用水は降雨量の影響を直接受けることになるため、近年、少雨傾向が進んでいることなどから、農業用水の需要量は将来的に現状よりやや増加する見込みで、平成 37 年度には年間 353,281 千 m^3 と推定される。

表-5 農業用水の需要量見通し

	H18	H27	H32	H37
水稻作付面積 (ha)	15,300	16,500	⇔	16,500
畑かん面積 (ha)	2,558	2,558	⇔	2,558
需 要 量 (千 m^3 /年)	344,978	353,281	⇔	353,281

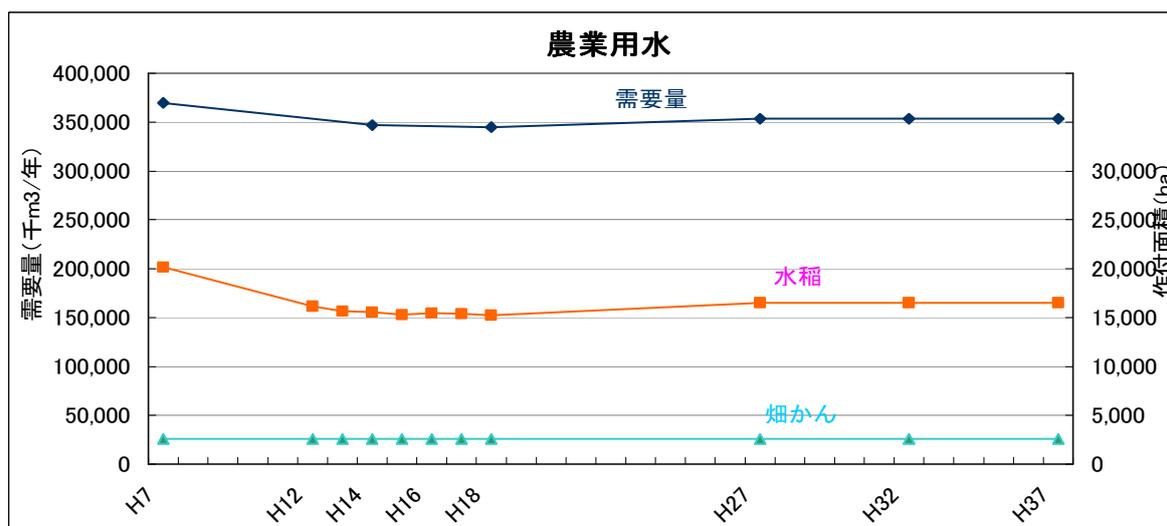


図 - 4 農業用水の需要量等

表 - 6 農業用水の需給バランス

(千 m³/年)

		H18	H27	H32	H37
全 県	需 要 量	344,978	353,281	⇔	353,281
	供 給 量	337,943	332,798	⇔	332,798
	不 足 量	▲ 7,035	▲ 20,483	⇔	▲ 20,483
受 香 益 川 地 用 域 水	需 要 量	271,233	278,079	⇔	278,079
	供 給 量	270,438	267,254	⇔	267,254
	不 足 量	▲ 795	▲ 10,825	⇔	▲ 10,825
非 香 受 川 益 用 地 水 域	需 要 量	73,745	75,202	⇔	75,202
	供 給 量	67,505	65,544	⇔	65,544
	不 足 量	▲ 6,240	▲ 9,658	⇔	▲ 9,658